

* 健康な苗は、充実した根を作ることが基本。

～こまめな温度・水管理で健苗を作りましょう～

* 農薬は、ラベルを確認して正しく使いましょう！

仙台管区气象台発表の1か月予報（4月18日発表）

予報期間	予報内容
4月19日(土) ～25日(金)	平均気温の高い確率は70%
4月26日(土) ～5月2日(金)	平均気温の高い確率は60%
5月3日(土) ～5月16日(金)	平均気温は平年並みまたは高い確率がともに40%

天気は数日の周期で変わりますが、東北日本海側は平年に比べ晴れの日が多く、向こう1ヶ月間は期間の前半を中心に気温が高くなる見込みです。

作業は順調に進みそうですが、一斉田植え週間に合わせ移植できるように、温度をコントロールしましょう。

1 育苗

今年の播種の始期は、4月11日（平年より1日遅い）で、盛期は4月13日（平年より2日早い）となっています。播種して1週間～10日程度経過すると様々な障害が始めます。育苗管理には細心の注意を払い、健苗を作りましょう。

温度管理

毎日の天候に対応するために、遮光・保温資材は適切に使用し、硬化期以降は、換気も行いながら、こまめな管理を行いましょう。

<育苗中の温度管理の目安>

	最適温度	最高温度	最低温度
緑化期(1葉期まで)	20～25	30	10
硬化期(1.5葉期以降)	15～20	25	5



ほとんどの人がハウス又はトンネル内に温度計を設置し、気温は測っていますが地温を測っている人は少ないようです。日中の地温の最適温度は、27～32です。健康な苗は充実した根の確保が基本です。地温も必ず測るようにしましょう。

水管理

灌水は、床土の水分状態を確認し、午前中の早いうちに行い、地温が上昇した午後からの灌水や、曇天で低温時の灌水は避けましょう。必要以上の灌水は、地温の上昇を妨げ、根張り不良の要因ともなりますので、適切な水管理を心がけましょう。

2 耕起・施肥

一斉耕起週間は、4月14日～20日です。

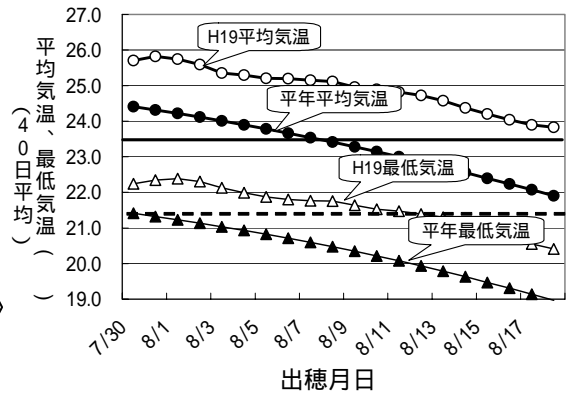
近年、耕深が浅くなる傾向にあります。土壌からの養分や水分の保持量を高め、安定した生育量を得るため、耕深は15cmを確保しましょう。

乾土効果を利用し、過剰な施肥は避け、土壌の地力にあった施肥量とし、良食味・高品質米の生産に努めましょう。

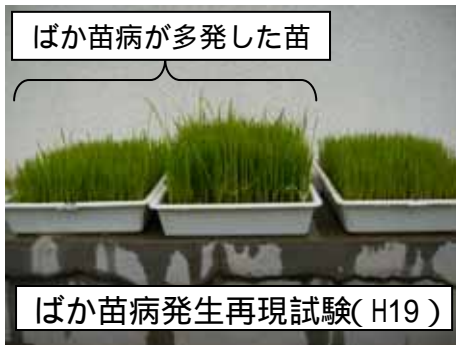
3 田植え 一斉田植え週間は、

5月12日～18日です。

早植えは、出穂期が早まり登熟期間が高温となり、品質が低下しやすくなります。特に、登熟期の高温で白粒の発生しやすい「ひとめぼれ」の早植えは避けましょう。



出穂期別平均気温・最低気温(出穂後40日間平均・本田7メータ)の推移



ばか苗病が多発した苗

ばか苗病発生再現試験(H19)

近年、ばか苗病の発生が多くなっています。ばか苗病の発生した苗の移植は、近接するほ場への影響も考えられます。安易に移植せず、農業技術普及課又は指導機関に相談してください。

4 箱施用剤は正しく

使いましょう!

特に、「使用時期・使用方法・使用量」は薬剤毎に違います。必ずラベルを確認しましょう。また、箱施用剤は育苗ハウスでは散布せずに、ほ場で散布しましょう。

5 直播栽培について

湛水直播における「はえぬき」播種適期は、4月25日～5月5日です。㎡当たり苗立ち数80～100本を目標に、播種様式に応じた適正播種量と落水出芽を守りましょう。

播種様式	散播	条播	点播
播種量(乾籾)の目安 (kg/10a)	3 ~ 4	3.5 ~ 4	4 ~ 4.5

鉄コーティング湛水直播では、表面播種となるように播種機を調整しましょう。

残留農薬のポジティブリスト制度 ~今年もしっかり取り組みましょう!~

今年も引き続き、農薬を使用する際は、使用基準を守り、農薬の飛散を防止するなど細心の注意を払いましょう。

「春の農作業安全運動」スタート!

トラクターの転落・転倒等重大事故が発生しやすい時期です。あせらず作業をすすめ、事故のないよう注意しましょう。



春季農作業事故防止運動強化月間: 4月10日～6月10日